

追悼

ベヴァリー・F. M. カレン教授を偲んで



ベヴァリー・F. M. カレン教授が10月14日に逝去されましたことを、深い悲しみと共にここにお知らせします。カレン教授は愛すべき同僚であり、尊敬すべき教育者であり、国際基督教大学（ICU）ジェンダー研究センター（CGS）にとってかけがえのない所員でいらっしゃいました。

2013年にICUに着任以来、カレン教授は本学の教育・研究に、また啓発的な企画・プログラムに献身され、その発展に尽力されました。カレン教授は本ジャーナルの編集委員であり、2020年から2024年まで編集委員長を務められました。

多様性、ジェンダー平等、LGBTQ+の権利の擁護に情熱を注ぎ、あらゆる人を肯定し受け入れるふるまいと、CGSの活動への揺るぎない参加を通して、カレン教授は数多の人々にインスピレーションを与えられました。ご専門の翻訳理

論、言語とジェンダーの分野では、洞察に満ちたご貢献により、消えることのない足跡を残されました。

大学教授としての役割を越えて、ベヴァリーの温かい人柄、ユーモア、共感、学生を導くことへの献身は誰もが知るどころでした。彼女の研究室のドアは常に開かれ、周囲の人々の才能と熱意を育てることに多くの時間を投じました。病床に伏してからもオンラインで授業とオフィスアワーを続け、CGSのすべての会議に出席されました。すべての学生と同僚の持つ力を信じ、その夢の実現を助けるために惜しみなく働かれました。彼女のリーダーシップとビジョンを失ったことは、学生、同僚、そして大学コミュニティ全体の大きな損失であります。カレン教授は大切な友人であり、献身的な家族であり、活動的なコミュニティの一員でした。彼女のやさしさ、笑い、人生にそそぐ熱意は、多くの人の心の琴線に触れるものでした。

ベヴァリー・F. M. カレン教授は学問的貢献のみならず、その活力あふれる精神と、彼女を知るすべての人と分かち合った愛ゆえに、いつまでも私たちの記憶の中に生き続けるでしょう。彼女の残したインスピレーション、共感、揺るぎない献身は、私たちの遺産としていつまでも在り続けるでしょう。